

## 第10期第4回府中市美術館運営協議会会議録

- 1 会議名 第10期第4回府中市美術館運営協議会
- 2 開催日時 令和2年8月9日（日） 午後2時から
- 3 開催場所 府中市美術館講座室
- 4 出席者 (1) 委員（敬称略・順不同）  
薩摩、谷矢、寺田、江川、上村、米谷、隠岐、吉田、松林、  
栗原、松浦  
(2) 事務局  
藪野館長、相馬副館長、鎌田副館長補佐、尾崎管理係長、志  
賀主任、武居教育普及担当主査ほか
- 5 議 題 「府中市美術館第2期2020年から2039年の展望について」  
の答申案について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 発言内容 以下、□は各委員の発言、■は事務局

（会長挨拶）

□皆さん、今日は連休間の猛暑の中、出席で喜ばしいことだと思います。なかなか皆さんが揃うことは、日程調整が大変だったり、協議会自体の回数が多いのですが、最近はメールという便利なものがございまして、そこで結構いろんな意見交換ができたかな、と思っております。

ここに答申の草案としてまとめ、ご努力の方も大変だったと思います。一応草案ができておりますので、これをもとに最後の意見交換を行いまして、それをまとめ上げて、最終的な答申へ持っていきたい、と思っておりますので、よろしく願いいたします。

(館長挨拶)

■皆さん、こんにちは。新型コロナウイルスが広がっていて、こんな形で意見を拝聴しながら、集めて参りたいと思います。

恐縮ではありますが、私は今朝、たまたま夢を見まして、2020年から2039年までの長いスタンスの答申をまとめる、ということでしたが、夢ではなく本当に実現できるということで、皆様には感謝しております。

私の今の夢は、中学生たちが私の所へきて、自分たちで能楽堂を作ったということで、実際に見に行くと、きちんと出来ていて、「すごいなあ」と。中学生たちが「自分たちは細部にわたって、演じていきたい」と思っているということで、極めて高いレベルで子供達が受け取って、それを再現していくのではないかと思います。

ここで次世代に受け継ぎてもらいたいと、そういうメッセージというのを皆様から話をして頂いているような気がします。そして夢のようなことも、忌憚なき発言をして頂ければ、それを聞いて私たちも実現できるものは実現していきたいな、と思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。以上でございます。

(資料を確認)

■この場を借りまして、当館の新型コロナウイルス感染症に対する臨時休暇について、お知らせします。3月末から断続的に4月の8日まで、ふつうの系譜展を開催することができたのですが、途中3月の土日に臨時休館をさせていただき、4月に入って緊急事態宣言が出まして、4月の8日から6月2日まで臨時休館となり、「武蔵野展」が開催することができなくなりました。

また9月中旬から予定しておりました「動物の絵展」につきましても、今年開催することができなく、次年度以降どこかで開催したいという状況でございます。

□本日は11名の方が出席しております。過半数を超えておりますので、会は成立しております。

□では早速、府中市美術館の2020年から2039年までの展望の答申案について、まず事務局から簡単に作成の経緯について説明してもらいます。

(事務局説明)

■資料の答申書草案をご覧ください。こちらの草案は、おとし第1回から昨年

12月の第3回まで会議の、そして先月7月に開きました小委員会での議論をまとめて答申案草案としましたので、皆様からのご意見をいただきたいと思っております。作成の経緯は以上です。

□それでは、幾つかの項目に分かれておりますので、一つ一つ検討していきたいと思えます。最終的な答申を作るということですので、まず事務局の方で答申案を音読していただけますか。

□そういうやり方では、2時間で終わりますかね。事前に配られているのだから、私は無駄ではないかな、と思えます。

□私も、いまの意見に賛成です

□それでは、ここに文章がありますので、修正箇所がありましたら、御発言をお願いいたします。

□小委員会の間でも指摘させていただいたのですが、「総括」がないですね。答申案だけでは異質だな、と思えて、公募の委員の間で話したのですけれども、「それは、初めの方に書いているよ」という話があり、小委員会の方であまり強く出すことはしなかったのですけれども、やはり、これを見てみますと、例えば、この答申案のタイトルが「2020年から2039年までの展望」ということですが、これに「総括」が「はじめに」の中にないですね。

これで答申書という体をなすのですか。ここは、もっとせめて10行ぐらいに充実させないと、答申書の体を成さないのではないか、という気がします。

どうして、こういうことになったかと言いますと、あまりにも皆様の中に、充実した議論がなされてない。だから「20年先に、こういう美術館にしたい」というように盛り上がったことがなかったもので、この数行に収まってしまったのではないかな、という気がします。

それから、ここ20年もそうですけれども、今まで20年の間の反省ですね。前の委員会で『ベンチマーキング』と言うのを申し上げたのですが、例えば私なりに『ベンチマーキング』してみると、企画展とかは100点とか120点とかだと思えるのです。他の有名な美術館、山梨美術館とか和歌山美術館とか、そういうところに比べて。

ところが、所蔵品の評価で言うと、個人的な評価でいけば20点とか40点。点数自体、所蔵品点数以外は見えないかもしれませんが、一流の美術館は1万点を超えています。ですけれども、ここは2,300点。

それから、美術年鑑に乗るような絵画がなく、地味なんですよね。例えば、山梨美術館ですと、ミレーの絵ですとか、それを見に人が集まります。

仲間から聞いたのですが、「府中市美術館へ何を見に行くかな。これと言ってあんまり…」と。

まあ、私の意見ですが。ですから、そういう現状認識はどうかかな、と皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。

□感覚は、人それぞれですが、この委員会としては、美術館の後押しをして答申を出すわけなので、そのお気持ちが、「この美術館に見る価値がない」というお気持ちで始まっているのならば、非常に悲しいことだな、と思います。

□ちょっと言い方が厳しかったかな、と思いますが、「見る価値がない」というよりも、まだ20年しか経ってないので、「収蔵が途上にある」という認識が、必要なんじゃないかと。

「もう2,300点あるから、これで十分ですよ」というような内容が、この答申の中にもあるのですが、まだ、これからどんどん充実させていく必要がある、という認識。

それから私も、社会活動というか、テニスとか色々やっているのですが、府中に長年住んでいる方で「府中市美術館へ行ったことがない」という人がいたんですね。それで、すごくショックを受けて、「どうしてなのだろう」と。

やっぱり絵が、山梨だったら、「ミレーがあるから行こうか」とか、そういうのがあると、すごく違うのではないかな、という気がしましたね。

私の年齢で、そう先がずっとあるわけではないので、生きているうちに見に行きたいと思っている絵が、この美術館に入れば非常に幸せだな、と。

それから、小学生の孫の世代のためにも、そういう魅力的な美術館にして行ってもらいたいなど、そういう願いです。

だから長期の方向は、うまくやればいいと思うのですが、この時期にしか答申書に持ち込めない時期ですので。20年先の話ですね。

この後は毎年日常的なものがメインとなってしまうので、この20年を見通すと言うチャンスの時期ですので、やっぱり、かなり魅力的な答申にすべきだな、と思います。

例えば、モネやルノワールを買えと言うのは、難しいかもしれませんが、やれるレベルでの、それを具体的に入れられるだけの、例えば、そういう感動を与えられる作品を数点とか、それから量的には、先ほど数的なものを問題にするのは、おかしいという意見もありましたが、私として5,000点とかいうものがあるといいな、と思います。

□賛成とか反対とか、ではないのですが、この数ヶ月前の第3回まで話し合った時に、この辺の話もちょっと出ていたんですよ。

今回まとめるにあたって、話し合ったのですけれども、数ヶ月間、新型コロナウイルスがひどい状況ですので、この答申書の内容がすごくおかしいな、ということになっていませんか。

先の委員が、途上にあるものにもっと力を入れようよ、というのには私も大賛成なのですが、今、携帯でも始まっている3Dでの美術展とか、新しいバーチャルの世界と実物を見る世界とを、どうマッチングさせていくか、今後、縦軸で見えていく中で、わざわざ何度も足を運ぶという時代ではなくなっているのは、間違いないと思います。

府中市美術館が、休館を余儀なくされたというお話で、その間にオンライン美術館を作ったり、展覧会を変えて違うものを展示していただいたり、私も見てすごく良かった、と思っているのですが、その辺を新コロナの前と後と、そういうものを協議したものがないと、なんとも変だな、という気がしています。

□私も今の意見にちょっと。初めの方に「ゆくゆくは5,000点を目標とする」というようなことを書いたほうがいい、というご意見でしょうか。

□数量が、適当でないということであれば。

□適当でないか、どうかというのは、本当にあれなんですけれど、はじめのところに、それを入れる問題かどうか、ちょっと分からないのです。

あと「あそこに行きたいなあ」と、思うような作品群というのは、日本人に非常にマイナーなものだとしても、将来、それをすごくいいと思うかどうかは、それは「売り方」と言うとおかしいですけど、そういうふうに展示、これは美術館の腕の問題なのですが。

はっきり言って、それがちょっと怠慢だったから、「魅力がない」と、「あまり行ったことがない」と、「足を運ぶ気がしない」という人がまだいる。その意見は非常に厳しく、でも良い意見でしょう。それを受け止めるべきだと思います。

ですけれども、それと有名な、具体的に、誰でも知っているような海外の絵画を目玉にする、というのとは、全く別の問題と考えなければならない、と思います。予算の問題とか、いろんなことがあります。

それと、ひとつ最後に、私たちは、ここで、こんなにソーシャルディスタンスをとりながら、議論しなければならないという、この現象が20年後には、ある程度解消されていることが明らかですけれど、そのことに対する我々の姿勢み

たいなものを、もう少し打ち出してもいいかな、と。この機会に、実は感じておりました。

一つ一つの文言の問題もあるのですが、「動物の絵展」が延期になったという報告もありましたが、海外から作品を借りてくることは、非常におかしくなっております。今、飛行機は飛んでいないくらい。これがいつ、解消していくかは分かりませんが、今までの計画ができるかどうか、全く未知になってしまった。

だから、もうちょっと「それでも我々は頑張っていくんだ」みたいなものを盛り込みたいと、実は個人的に思っていたことなんです。

ですから、ちょっとその辺り、今はまだ始めの方でちょっと滞っておりますが、それをどこに入れるのかっていうのは、ちょっと最後にあるんですね、コロナが。ですから、「総括」というのは、最後の「おわりに」にもありますから、「総括」は、そこで言えばいいのではないかと、思います。

それから、コロナに関しても、そこに書いてあった気がしますので、ちょっと先に意見として、もう少し、初めの方に意見というよりも、どちらかというところ、もう少しいろんなところで具体的な目標を出すべきだった、という意見に、私は受け取れたのですけれども。

□個別のことじゃなくて、どこに、これぐらい力を入れていくべき、というのが、あるべき答申書ではないかな、と思います。

例えば、企画展を今のレベルを維持したり、ということでもいい、と僕は思いますが、これからは、収蔵品を増やすということは、一番難しいことですよね。これは、お金を出せば買えるというものではなくて、やっぱり10年、20年かけて購入するわけですから。

私が以前、ちょっと絵の専門家と接する機会があり、「買わないか」という話があったのですが、それは「セザンヌの人物画を2億9,000万で購入しないか」という話だったのですが、それは数年間の間に一回しかなかったんですね。そういうクラスになると。

だから、市民の感動を呼ぶような作品、目玉になるような作品を何にするか、非常に議論になると思うのですが、そういうところを、どう書くかと言うと、抽象的な表現で書くことになると思うのですけれど。

そういう構想的なものを、ある程度作らないと、現実問題が動かないのじゃないかな、という気がします。

□そういう考えは、分かるのですけれども、今、現状を考えてみますと、全てこの後の「作品収集活動」ですとか、「展覧会」ですとか、そういう項目に全部被さってくるので、「その場所に、どうしても来てもらうため、集客して人を呼ぼう」という発想で、収蔵をとらえていること自体が、今ちょっと変わってきてい

るんだと思います。

要するに、「集客をしないで、美術館をやっていく方法」を、私は逆に、それを考えていまして、これこそ地域性みたいなものを、ものすごく大事にしておりまして、収蔵品を損保美術館とか50周年を迎えて、すごく大々的に、やっていますけれども、近い将来、そういう風にやってくべきだと思うけれど、ただ今は20年の答申を出すにあたって、ちょっと、そこだけ具体性がない。逆にわからないから、ない方が、逆にいいんじゃないかな、と思うのです。

確かに、この数行が独創的な視点から、どうのこうの評価されていると、あまりにも抽象的なのですが、私は、それでいいんじゃないかな、と思います。

入れるとしたら、やっぱり、コロナについて最初に入れてしまうと、全ての予算とか、そういう定番だけを考えるだけじゃなく、予算が削られる、人員が削られる。そういう中で、どこまで見ていただけるのかと思います。

そこら辺の事を考えると、逆に、心が苦しくなってきましたまして、本当に初めに、コロナを盛り込まなくて、こんな答申を出してもいいのかなと、そういう気持ちですが、すごい強いのですが、みなさんはどうお考えですか

□施設をちゃんとしろとか、所蔵品はこうしないといけないとか、いっぱい書いてきましたが、本当に、こんなことしていいのだろうか、そう思っています。ここ一ヶ月悩みに悩んでいることではあります。

□私は先ほど、ちらっと思ったのですが、よく考えてみますと、20年の話ですので、ワクチンができると変わってくるだろう、と想定があるわけですけどね。

政府は、「来年には出来てくる」と言っているわけですから、そういう意味では、こういうことを同時に出しても、不見識ということは全くない、と思います。

20年先まで考えるなら、今しかないのです、当然、義務としてそういう意欲的な答申を作るべきだと思います。コロナの関係は、どっかで入れればいいのだと思います。

こういう状況だから、それを見ながら現実の対応をすべきだとか、それを入れることは必要だと思いますが、「理念をあまり高いところを目指さずに」とか、そういうのは逆だと思います。

□理念だからこそ、「将来の夢ある、共感を持たれる美術館になるために」と抽象的な事をおっしゃったのに対して、この数ヶ月、これだけ皆が苦しんでしまった状況なのに、何かを持って収蔵品を増やさなければならない、ということが、私には納得できない。

まあ、このお尋ねは、すごい参考になったし、徐々に増やしていくべきだと思

います。ただ、それが一点豪華主義になるのではなく、府中市、日本人、そういったものを考えた上で、収蔵を考えた方が良いのではないかと。

そういった意味では、府中市美術館は、ずうっと、やってきているから、今こそ府中市の一番いいところ、表現できる良い機会だから、それを初めに入れるぐらいで、もっと「そうだ、府中市にはこういう施設があって、絵は大事なんだし、今やラグビーは全然ストップしているぐらいだから、今こそいいな」と。

□他に、ご意見ございますか

□今のお二人のご意見は、とにかく1ページからの真ん中あたりにありますね。収集のところに「必要だ」と書いてありますね。それをしっかり表現してくれればいい、と思いますけれども。

私の方からは、答申書全体の表現について、軸について、こういう風に訂正したらよろしいのではないのでしょうか、というようなご意見を検討して頂ければ、と思うのですが、よろしいでしょうか。

一番、最初の方から見てみますと、初めのところの6行目のところ、「多数の鑑賞者を迎え入れ、好評を博すと伴に」となっておりますが、「博す」でも、いいのですが。

□次の2段目、「しかし一方」を「一方」で、よろしいのではないかと思います。

□次に「施設の改善も図る必要がある」とありますが、「施設の改善を図る必要がある」でいいと思います。

それから、見出しなのですからけれども、初めの方に作品収集とありますが、むしろ番号を振った方が、説明する時に良いのではないかと思います。

□とりあえず、初めのところだけで、ありがとうございました。

□最初に委員の発言から、色々なご意見が出ましたが、聞いていまして、かなり全体的な部分に関わってきて、例えば、作品の目玉の収集に関しましては、「はじめに」ではなくて、「作品収集活動」に入れればいいことですので、全体的なことを、例えばコロナですとか、どこに入れればいいのかと言うと、一番最後に入れればいいのかと、私は思うのですけれども。

そういうことで、最初にありましたのは、全体的なものに係るものであると認識しております。



そして、今ありましたように、やはり答申書は文書が整っていなければいけない、ということ。これは言葉が全てですので。ということで、今までのご意見ありがとうございました。

□というレベルでしたら一点だけありまして、6行目、「全国の有識者から評価されている」というところなのですが、この前の「有識者から高く評価されている」からいいのではなく、そういうレベルが高い企画展を開催したのは良かった、ということなので、そういう風に修正したら、どうかと思います。

具体的に言いますと、「府中市民のみならず、市外からも多数の鑑賞者を迎え入れ、好評を博した。全国の有識者からも評価され、レベルの高いものであった」という文章が入ってくれば。

これを見ると、全国の有識者から評価されるのが目的であるかのような、そんなニュアンスを感じるので、あくまでも市民ないし来館者から好評を博した、ということがメインなので。

□あと、大丈夫でしたか。私の訂正だけではなくて、「もうちょっと、こういう側面を入れた方がいいです」とか、最初で30分ぐらい入ってきました。いろんな意見を、この答申書の中に、どの部分で反映させるか、という問題ですので。

□私が思ったのは、ここ20年間のところが、2行なんですね。下から5行目のこれでは、あまりにも珍しい答申書だと思います。去年の答申書は、そうなっているのかもしれませんが、もうちょっと志を高らかに歌い上げる文章にならないもんですかね。

□すいません。質問なのですが。これは小委員会をたくさん開いて、作られたものなのですか。

□小委員会自体は、1回なんですけども、結構メールで。

□美術館の方が、お目通しをしてくださって、美術館側として、この答申が出るということで、何か改善してほしいですか。

□えーと、ちょっと誤解があると困るので、これは美術館によって微妙に違うのですが、この内容の答申というのは、何を決定するかではなくて、市長ではなく、館長の諮問に応じて答申を行い、そして、それを受け取った館長が、または館が言ってみれば、これが市の例えば建設当局とか、色々折衝して行く時の武器にな

るもの、つまり美術館の職員、学芸員のみが、こう考えているのではなくて、「こう集まっている市民の代表3名の方を含め、この委員会から、こういう意見が出たのだから」と。

美術館にとって、私達は応援団ですから、厳しいところはちゃんと厳しく言う、批判するところは批判する、という本当の意味での応援団ですね。そういうものを作って、これが武器になっていけばいいという、そういうものですね、答申書とは。

ですから、美術館側で、もっとコロナ対策のことで、もっと色々な記述が欲しい、ということであるならば、やはり変更する必要があるかと思います。

もう少し高邁であるといいますか、崇高な風に書き直す、というのであれば、こちらの方で、ちょっと考えます。

今ちゃんと文章にしていきますと、2時間でとても終わらないので。20年間ですからね。もう少し理想ですとか、検討していきたいと思います。

それでは、もうすでに先ほどから収集活動に関わる内容について既に指摘ありますので、この先に就職活動について、何でもいいので何かありましたら。

「はじめに」というところで、ちょっといいですか。

はい、どうぞ。

「はじめに」にある、公開制作の文末が「...ように思われる」と、やんわりした感じですが、実際には、公開制作や美術館と協力した活動の実際の指導など、私は、この府中市の美術館との連携による教育活動とか、大変これまで評価して、成果を上げているのを現場で見てきたので、そこを考えますとね、「思われる」というのは少し弱いかな、と正直思います。

やはり「果たしてきた」とか、もう少し強調した表現で出していく方が、子供にとってもいいのかな、と思います。

■ありがとうございます。これは美術館側にとっては、大変嬉しい発言ですので、私としては充分取り入れたい、と考えます。

では作品収集活動について、理念的なものでもいいですし、抽象的なものでもいいのです。この二つは両輪なので、「まず理念をやりましょう」とやっているとお話が進まないの、ごちゃ混ぜで、一向に構いませんので、ご意見、ご指摘が

あれば、どうぞ。

□先ほど言ったのと重なってしまうかもしれませんが、「美術品のさらなる積み増しが必要である」の後に、購入する考え方や効果、どのようなものを買いたいかと言うのを、もっと具体的にある方がいいかな、と思います。これですと「必要です」、「あーそうですね」で、5年、10年とすぎてしまうような。

もっと、やる気を出して、美術品をこういう方向で強化していく、という構想の議論がなされていないので、されていない議論を書くわけにはいかないの、構想をまとめる、ですとかね。

今日、所蔵品強化の20年の長期的構想を早急にまとめる、ということがあると、非常に担保できる表現になるんじゃないかな、と思います。

□ありがとうございます。ただ事務局の方から答えていただきたいのですが、一応構想とかありますよね。

■美術館の収集についての一番大きな方針は、美術館の収集方針という形になります。これは、江戸時代以降の絵画関係、それから明治から昭和にかけての洋画、府中市、及び多摩の関係、2段落目に書いてある、それが一番大きな方針となります。

先ほど、委員がおっしゃっていたのは、例えば、その作品を7年後に収集するようなもので、1回や2回ならできるのですが、その作品が非常に時間がかかった場合には、どうするのか。或いは、その計画の中に具体的に入っていないけれども、真筆で発見された物を収集したい、と思った時にどうするのか。

逆に具体的すぎる方針が足枷になって、収集の幅を狭めてしまう。その中に入っていないから購入対象外だと言う。具体的過ぎる計画は、逆に足枷となってしまう可能性を懸念しておりまして、今までの収集活動というのが無制限に行っていたわけではなくて、一定の収集方針に基づいて行なっていますので、さらにそれ以上の「何年以内に収集する」、「何年後には何々を収集している」などというのは本当に必要なのか、と思っております。

□この2億円の基金の新設について、申し上げてもよろしいですか。開館以来の基金が途絶えてしまった後、長く間を空けて、やっとの新設されたので、これは大変喜ばしいという気がしますので、是非これの継続という言葉で、文章を作って欲しいと思います。

それが運営委員会の仕事ではないかな、と思います。

□ありがとうございます。

□これから、作品の数が増えていくと思うのですが、そういう時に、すぐにこの美術館にふさわしいと思われるような作品を学芸員の方の判断によって、コレクションを充実させるということは、基金にかかっておりますので、予算という項目は後にあるのですが、市に美術館があるからこそ、美術館の作品の収集にお金が使えるようになるので、一文を入れていただきたいと思います。

□今のお話は、既に下から3行目に「美術品購入の維持」で、既にうたわれております。

□基金の大切さを、ぜひ書いていただきたいと思います。

□維持だけでは足りないだろうと思って、その積み増しも協議してほしい、と要望を出したのですが、書いていただいているので、これでよろしいのではないかと、思うのですが。

□あと先に、事務局がおっしゃっていた、数値目標をあまり厳しくしてしまいますと足枷になる、と私も思います。何点購入する目標にするかは、必要がなければいけない、と思います。

□答申書の中に「量と質を充実させる」というようなところがあるのですが、こういう時は「質と量」と言うものですが。殊更、量にこだわっておられるのかな、美術館サイドで、と思ったのですが。

例えば2,300点を4,000点とか、5,000点にすれば、企画展も非常に開きやすいと思ったのですが、美術館側として、そういったものがない方がいいというのならば、なくても全く問題がないと思います。

ただ、20年の間に何をしますか、と言うことがわかるように、「誰の作品を数点は購入したい」と、それぐらいのものがある方が良いと思います。

□これは、ちょっとした事ですが、やはり「質と量」でしょうね。頭を取った時に「質量」とはなるけど、「量質」とは言わないですからね。これはそうでしょうね。

□やはり、美術館の方針がこういうところに出るのかな、と感じました。市民としては、私だけでなく、他の市民の方の意見もあったのですが、やはり質を考え

ていただきたい。

ここで言った通り、ガイドブックを見て、府中市美術館のページを開いて、「ここに行きたいな」と思う人が、どれくらい、いるだろうか。

たくさん東京都の美術館のガイドブックが出ていますが、ちょっと地味だな、と感じがしますね。そこで、あっと、するようなものを。そうすると、市民の人も、やっぱり行こうと思うものですよね。

まあ、同じことを何度も言うのと、あれなので、これくらいにして。

□まあ「質と量」という書き方で、どういう表現にするかは、分かりませんけれども。要するに口語で言うと、目玉となるような作品が増えればいいな、というのはあるとは思いますが。ただ何と何、どういったものを、非常に難しいことになるのですが。

□逆に、委員の中からは、目玉とか感動を与えるような作品が、もっと欲しいということですが、何を以って感動するのか。個人的なものなので、セザンヌに感動する人もいれば、感動しない人もいるので、これは運営協議会では、どうにもならないことなので、そういう意見があるという使命を反映できるような予算が欲しい、ということ盛り込むことは可能かな、と思います。

□そうですね。

□あと、ひとつだけ1ページの一番最後に「文化資源を」となっていますが、これは「資産」ではないでしょうか。

□前は「資産」だったのですが、最近「資源」という言い方を意外にするのですよ。

□「資源」というと、何かすごく材料という感じがして。府中市民の貴重な「財産」と言う、そっちの方かな、という感じがして。それでも「資源」を広い意味で使うなら、それで。

□今の「文化資源」という言葉は、最近出てきた言葉で、最初、私も違和感を持ったのですが。まあ、これはお任せします。どちらでも。

他に大きなことでも、語句の訂正でも。今の「量と質」の所でも分かりましたように、ちょっとしたところの訂正でも、かなり本質的な問題が含まれていることがありますからね

□二つだけ、よろしいでしょうか。テレビの番組で、そういった事があったのですが、各地の資料館が維持できなくなっていて、重要な資料、もちろん作品も含めてですが、破棄せざるを得ない状況に追い込まれている、というのをテレビ番組でやっていたんですね。

今、量の問題がありました。この規模の美術館で収蔵庫の容量ってというのは、どうなのでしょう。20年間増えてきた時に、どんなに質が良かったとしても、収めきれぬのかどうか、という問題。付帯する資料というものがあると思うのですよね。

やはり作品だけ一枚あればいい、というものではなくて、それに関する鑑定書じゃないですけども、関係資料ですとか、そういうものも含めての収蔵でなければならぬ。その容量ってというのは、大丈夫なものなのでしょう。

□実は、私は今こういう立場なので、あまり自分の意見を述べていないのですが、この「作品収集活動」に入れるのか、「施設整備」の方に入れるのか。

ちょっと、やっぱり収蔵環境の確保みたいなことは、実はもう少し強調した方がいいかな、と思っております。

ただ、これはですね、美術館、資料館、博物館もそうですけれども、ミュージアムが永遠に抱える問題で、作品の収集を充実させれば、収蔵庫が必要になる。収蔵庫の拡充ができなければ、作品の収集はストップしてしまうので、ずっとこの課題で、どこも四苦八苦していると思います。

民間の倉庫を借りてくる美術館もたくさんありますし、収蔵能力の限界を理由に収集をしないミュージアムもございます。

どこも永遠の課題なのですが、少しその辺の文言を「収集活動」に入れるか、それとも次の「施設整備」に入れるか、それは次の「施設整備」に行ったところで検討したい。

これは入れておいた方が、財務方面や建設方面と折衝する時に、ちゃんと書いてあることが、必要なことだと思います。

また最後に全体を見渡すところがありますので、「展覧会活動」は、これでもよろしいでしょうか。

□先ほど述べましたように、大きなことでも些細なことでも、何でもご意見ご指摘がありましたら、お願いします。

□あの分科会ではですね、最初に具体的に展覧会を、きちんと上げて、論理を展開してほしいという指摘があったのです。そういう方面になりますし。

□「その他」のコロナの所に、オンライン美術館として素早い対応ができた、と書かれています。この時に「普通の系譜」の展示もあったわけですね。

それはご苦労だと思っておりますが、そういう臨機応変な対応ができるというのも、とても素晴らしいと思っておりましたので、オンライン美術館だけではない、様々なことで期待に答えているのだと思っております。

代替展覧会も、やっていたら良かったですよね。それも、ちょっと一言、書いた方がいいと思っております。

□事務局の方にお聞きしたいのですが、このコロナ禍の中で休館もされた反面、いくらかの素早い対応もあったと思うのですが。これは委員全員がご理解しているかどうか分かりませんので、オンライン美術館は具体的に、どんな活動をされましたか。

■ホームページの中に特設のページを設けました。そこで今も徐々に増えているのですが、収蔵作品の紹介ですね。これは今までも、他のところで載せていたのですが、これを見やすい形で掲示しました。

それから藪野館長のブログと言いますか、紀行文と風景のスケッチを載せたということです。

それからもう一つは、美術館の行っている感染対策、開館状況も取り上げて、それから最近では、ご家庭で簡単にできるようなワークショップ工作の取り組み、それを文章と写真と、その後には動画でも見られるように付けております。

美術館休館中に芸術について楽しんでもらえるように、それから美術館の中の人間としては、やはり美術館で直接、作品を見てもらって、可能であれば美術館職員、学芸員の存在があって、話をしながら作品を見てもらうのが重要だと考えておりますが、コロナ禍で充分できない中で、家庭でオンラインで楽しんでもらうという対応のページになっております。以上でございます

□ありがとうございます。それから代替の企画展とかありましたでしょうか。

■5月の連休まで開催する予定だった展覧会が、美術館の全面休館ということで、十分な公開をすることがなく中止することになり、その後の5月中旬から7月上旬まで開催する予定だった「ここは武蔵野」という、東京西部から埼玉にかけてのテーマにしての展覧会は、作品を十分に借りてくることができなかったので、開催自体中止となりました。

そして、その代替措置としましては、所蔵品を展示し、内容については、府中

多摩地域を描いた風景画などを、江戸の終わりから明治大正昭和と、所蔵品を使っての特集展示となります。

それから今現在、準備しているところですが、動物の絵展が中止となりまして、当初、所蔵品で、と考えておりましたが、新たに企画を練り上げてまして、急遽、準備しているところです。

□でしたら、そのことも書いておかなければならない。新しい企画、あるいは所蔵品を活用した企画、それを入れといた方がいいと思います。

対応が比較的早かったと思います。規模的にちょうど良かったというのもあるのでしようけれども、大規模な施設の方が四苦八苦していました。

■「展覧会活動」の中で、先ほど委員さんが「目玉」ですとか、「ちょっと高い物を」と言っておられましたが、中には知られていないものもありまして、美術館の企画がきっかけとなって評価され、逆に値段が高くなって予算が足りなくなると言う、つまり展覧会が価格を上げると言う、そういう矛盾もあります。でも矛盾があるから、収集したいですね。

学芸員、一人一人が自分の世界を考えながらやっていくっていうのが、ここ府中の面白いところだな、という気がします。自分が前にいた博物館を考えてみる。

それから、こういう風に話が次々と出てくる運営協議会は素敵です。以上です

□ありがとうございます。ここで紹介されて、それを気づいた人が少なからずいると、結構やってきているので、そこまで行かなくても、もう少し具体的なものを入れてもいいのかなって気はしますけどね。もうちょっと出してもいいのかな、って気はします。

□ここは、司馬江漢をやったり、作品は知っていたけども、一度にあれだけ、ぱっと見られるとなると、日本でやっていたのは、ここだけ、みたいな。そういうのをやっていたんだよ、っていうことを、もっと内外に宣伝したらいいんじゃないかと、そう思うのですよね。

地味な感じがするというのは、宣伝の仕方が地味ということがあると思います。私は司馬江漢っていうのは知っていたけど、他にあんなに作品があるとは知らなかった。

そういう意味では、もっとこういうのをやったんだよ、ということを美術館の歴史じゃないですけど、自慢するような、なんかこうビジュアルな宣伝の仕方ってあるんじゃないかな、という気はするんですね。履歴のところで過去になっ



たっただけでなくて。

皆さん、そういうような要望はあったんですよね。折角なのに、おずおずとしか展示していない。そこは強化を感じるどころです。

□私も同じ意見です。大賛成です。やはり広報でなく、宣伝で。私が衝撃を受けたのは、立石さんですとか、全てのあらゆるものがあって今までにない。これは綺麗でなくて全部見せられて、はじめて人生で見たいものが分かって、何か入り込めるものがありました。

これは府中の美術館の素晴らしいものになりました。

□はい、ありがとうございました。「展示会活動」の中で入れていくか、「広報活動」で入れて行くかどうか、また後ろの方で検討していきたいと思います。

最後に総括をしますので「教育普及活動」は、いかがでしょうか

□これまでの会議の中で、何回かお話をしてきましたが、Webの活用については、主に「広報活動」の項目のところに、詳しく成果など書かれています。

特に教育関係の話をしますと、ご存知の方も多いと思いますが、いま文部科学省の方で、全国ギガスクール構想を推し進めています。これを簡単に言いますと、学校で言えば、個人で使える端末を原則一人一台に付与します。それから、それについてのコンテンツも増やしていきます。それからオンラインで授業をできるような元となる、ネットワーク通信も整えて行くということを、数年にわたって進めていく計画で、これは元々あったんですね。

それが俄かに注目されましたのは、今回、学校が臨時休校になり、早期に全国の中で、早々とギガスクール構想を取り組んでいたところは、インターネット端末を使った。果たして、それが授業と言えるかどうかは別として、色々な学習課程ですとか、使った子供達とのやり取りといったものが出来てきました。

府中市もこのコロナ禍の中、いま急速に学校現場でも、このギガスクール構想に基づいたネットワーク活用というものを、いま進めています。府中市教育委員会を中心に進めております。現場の方にもそういった準備されてきております。

また今年度から教科書が新しく変わって、その中でも地域の美術館などと連携した教育活動が教科書の中に盛り込まれてきている、ということを考えますと、この教育普及活動の中で、いわゆるネットワーク、またICT環境を活用した美術館との連携という内容が、具体的に盛り込まれていくことが大事な、と考えております。

急に提案ですが、市内の図工教諭に先頭に立ってもらって、それから絵の先生でしたらば、ギガスクール構想を想定した上で、急に言ってすいません、例えば

授業にどうやって活用していくか、ちょっと出していただくと分かりやすいと思うのですが、どうでしょうか。

□そうですね。美術館の収蔵作品などを今、学校には大きなテレビがあるので、それを使って観賞用のギャラリートークを、子供達はここに作品を見に来る前に、ギャラリートークの講演をしっかりと聞くとか、そういう事が出来たりするのかなと、ぱっと思いましたが。

□すいません、急にお願いしまして。いわゆる、そういったところで、実際にはそういう動きがあります。

これから10年、20年先になりましたら、おそらく3Dで子供たち一人一人が何らかの形で、今よりもっと簡単に一時的に、それを事前に鑑賞のポイントを確認しながら、美術館の本物に触れて、それをもう1回見てみたいという時に見るとか、擬似的なものを含めて、本物そのものに触れる機会ですとか、それによって事前指導ですとか、本当に効果的になると思います。

この教育普及活動の中にネットワークの活用と言うことも盛り込んで頂くのが、今後の必須事項になると思います。

□ありがとうございました。そうですね。これから20年を見据えていくことで、今後の教育普及活動、例えばアートスタジオ、ワークショップ、その他、ネットワーク、或いはオンラインで美術館に来ない人でも疑似体験ができる、或いは美術館で体験したことでも、もう一度ネットワークオンラインで体験できるというような、そういう方向に行く。その辺のことを、ちょっと入れといた方がいいかもしれないですね。ギャラリートークだって同時にオンラインで流していいわけですから。

□すいません。あの今のに関連して、小学生、中学生もそうだけれども、高校生や大学生も来られる回数は少ないのですね。

この前二つ経験しまして、一つは東京外国語大学から国際近代育成プログラムというの中に、「府中市の美術館を見に行く」というプログラムが入っているのですが、それで大変な問題が起こりました。

つまり、ヨーロッパの大学生たちが動けない今、移動はできないけれど、外国人との間にディスカッションを、しかも区別なく色々とすることができます。同じように全ての人が受けることができます。

それから、もう一つリピートができるという、大きな成果もあつたんじゃないか、と思います。

それから二つ目は、これは実際、自分で理工学部の授業で借りてきたんですが、実技をやるという授業があり、その時、思ったことは、これからも機材を含めて、書きながら書類を見ながら、ラリーでやっていくことができる、ということです。逆に教室でやっているよりもいろんなこと考えられ、効果的にできることもあるんだな、と思いました。

非常に面倒くさい学生と去年、非常に歯がゆい思いがあり、そういうことも含めて、効果があるんじゃないかな、という気がします。

美術館の中でも生かせるんじゃないかなと、先生を伺いながらそう思います。

□ありがとうございます。

□あの文言のことなんですけれども、ちょうど真ん中辺りの「学習要求の高い市民、美術関係者や高齢者など、どんどん引き込んでいく」というのが、なんか唐突すぎて、いま小中学校とか高校とか大学の教育というのは、これから伸びていく人材に対してのもので、「高齢者に今更、何を教育するの」という、ちょっと違和感があったんですね。

美術関係者なら、それなりの興味があるというのは分かるのですが、本当にこの言葉でいいのか、ということなんですけれども、他の言い方としては、何かないでしょうか。「シルバーエイジ」ですとか、もうちょっと幅広い意味で。

あるいは、あまり教育されてないのじゃないか、という教育の内容に対して。そういう意味での高齢者層だと思うのですけれど。

あと、その下もですね。「高齢者を対象とした事業や、外国語話者を対象とした事業など」ということで、ここにも「高齢者」という言葉が来て、ちょっと疎外感というか、自分が高齢者だったら、そうかと思うかもしれないけれど、これは綺麗な言葉っていうのが他にないでしょうか。

□はい、ありがとうございます。実はこの辺は、私も若干気になるころがあったのですが、ただ別に「高齢者」とか「高齢者層」という言葉自体が、問題のある言葉ではないのですよ。

今度ギャラリートークをオンラインでやるのだということで、私は是非エントリーしたいと思っているのですが、ますます敷居が高くなっちゃって、辛いなっていうのが、ちょっとあるのですが、なんとか巻き込んで、それが希望なのですけれども。どうでしょう。この辺りの文章は。

□行政の言葉として良いですかね。

□行政が好きそうな言葉？

□60歳以上とか、そういうくくりがあるのならば。ないのであれば高齢者といえば、65歳ということになるので。

□特に「これは、だめだ」ということじゃなく、他に何か見方が、もしあったらと思ったのですが。

□その言葉もそうなんです、「学習欲求が高い、美術関係者、高齢者層」など、じゃあ、若年層などは学習欲求が高くないのかという...

□括弧の中、いらないんじゃないですか。

□それ、いい案かもしれませんね。

□あの、こういう学習意欲の高い人は、一杯いると思うので。むしろ暇だから。「学習意欲は高く、年齢を問わず」というので、いいんじゃないかと思えますけど。「学習要求」でなく、「学習意欲」ですね。

□小中学生に対しては、プログラムのようにやっているのですが、それ以外ないということから、こういう風になっているのですか。

□そうだと思います。どうしても、やっぱり教育普及というと、小中学生が中心になってくるというところがあると思います。それは、あの義務教育の学校関係との連携ということで、当然といえば当然なのですが。

□なんか高齢者には、美術鑑賞を享受する術がない。引きこもってしまうっていう人が多くて、出かける術もなくて、せっかく意欲があるのに行けない、というところを何とか美術館として努力してもらえないか、というのを言った覚えがあります。

□具体的に高齢者を対象とした事業が具体的には、あまり上がっているものではないですよ。世田谷美術館などでは、大学をやっていますよね。美術大学と言いますか。そこまで行かなくても、美術講座みたいなものを、人を集めて、ちょっと講座みたくのやるような、今は資金難で中止していますけれども。

□卒業証書は、もらえるんですよね。

□そうですね。結構、長いカリキュラムになっていて、市民アカデミーというのに出たことがありますして、今でもかなり熱心に市民運営でやっている、なかなか無いものなので。

□でも府中市には、「カレッジ100」っていうのがありまして、十人以上集まれば、例えば美術館からでも、一人学芸員の方が来て講義をしてくれます。確か「カレッジ100」だったと思います。

□高齢者プログラムについて、具体的に何か書いたほうがいいかもしれませんが、私はたまたま「美術館の楽しみ方は、ボランティアだ」と考えた時に、府中市民よりは、他の方が多かった。

あるいはワークショップでも、ちっちゃい子で幼稚園から、最高齢は80何歳という高齢の方、幅広い世代の方が来ていたのですが、内容的には誰でも受けられると言った方が、これも宣伝かもしれませんが、やっぱり高齢者プログラムじゃなくて、確か何かを含めて貴重なんじゃないかと思います。

□確か何年前に、市長が「世代交流」というのをおっしゃっていましたが、高齢者ですとか、世代に関係なく、世代間交流を目的としてもいいんじゃないか、と思うのですけれども。おじいちゃん、おばあちゃんと、お父さん、お母さんと子供と孫と、そういう広い年齢層が関わりを持って。

□そうですね。

□実際に10月かな、ワークショップをして頂いた時に、そういうテーマで、本当に手をつないで、家族連れがやってきてくださったのに、なくなってしまった、ということもありましたから、そういう目標を掲げれば、利用する市民の方には得かな、と思います。

□「これらを継続しながら、学習意欲の高い、広い市民層を引き込んでもらいたい」ですとか、「広い市民層の世代間交流」ですとか、そういう言葉にした方がいいかもしれませんね。

□この「ひらけ美術の扉展」ですか。ちょっとだけ、時間があって、見させてもらったんですが、僕は子供達を小学校で教えていましたし、プライベートでも、

かなり常設展作品をたくさん見ている方かな、と思っております。

やはり、この美術館の教育普及においても、企画展は、とてもいいと思っていて、子供が美術館鑑賞を初めてするには、とてもいい展覧会をやっているな、と去年、見させてもらって思っていました。

今年は、ゆっくり見させてくれた展覧会だな、と思って見ましたが、すごくいい展示やっているのだけれど、「これを、どれだけ府中の子供達が知っているのか。あんまり知られてないのではないか」と正直、思っていて、各家庭に1枚ぶんぐらい配れるぐらい宣伝して欲しいな、と思います。

学校で多分、全員分は配ってないと思います。僕のところには、チラシとか来ますけれど、授業を通して配っているのか、ちょっと、わかんないのですけれども。

僕自身、配ってないので分かんないのですけれども、もしかしたら配っているのかもしれないけれども、宣伝をしっかり、やってもらいたいな、と思います。

ちょっと今の追加ですけど、私は、これちょっと前に見させていただいたんですけれど、児童教育に長年携わってきた人と一緒に見たんですが、非常に良くなって言っていました。

私個人としては、この本物の美術品を使って解説するっていうのは、非常に贅沢で、子供にとって、すごい教育効果があるな、と感動しました。

イギリスに住んでいた孫が2週間前に日本に帰国しまして、府中市の小学校に行っているんですけれども、来週ぐらいに連れて行こうかな、と思っています。

だから学校で、全員行くように指示されたらいいんじゃないかな、と思いますけどね。もう夏休みに入るんで、こんなに素晴らしいのに行かない子供がいるとしたら、非常に惜しいですね。

もう全員、必ず行くように学校から指示してもらうのがいいんじゃないでしょうか、と思いますけどね。指示っていうのは、ちょっと無理ですけどね。宿題でやるとか、ですね。

一人、一枚ずつチラシを配りたいですね。

そうですね。実際、どうなっているんですか。

■美術館の今回の展覧会は、基本的に全部、教育委員会にかけてますし、それから校長会でこういうことをやります、っていうのをアナウンスし、それから教育機会については、ポスターとチラシを配布させて頂いております。

その中で市内の小中学生なら、パスポートで、無料で入れますので、そういったものも含めて宿題で、夏休み期間中、7月の終わりぐらいから9月まで集中しないように、先生方も注意しながら、鑑賞するよというこことで、ご指導いただいている、という風に認識しております。以上です。

□ちなみに、これはパスポートで、これがあると小中学生が自由に入れます。

□ちょっと、お尋ねしたいんですが、商工会議なんかにも送っていますか。府中市の中で、例えば、大きな店舗の所には、ポスターが貼ってあったりするのですが、市内のどこにポスターが配られているんでしょうか。だいたい、わかりませんか。

□展覧会の予算等ありますので、必ずしもポスターとかチラシとかは、毎回、毎回、同じ部数を作るんじゃないと思いますが、だいたいどんな風に配っているのですか。

□主立った店舗には、チラシを配布しておりまして、理髪店ですとか、そういったところには、組合の方から名簿をいただいて送っております。

ただ、お店をたたまれたり、ですとか、「うちは、いらぬい」とか、そういうのがありまして、長年、一覧表を元に対処しております。

ただ店舗が非常に多くて、ポスターにしても、印刷枚数も限られており、一番のネックは郵送料ということになりますので、それを美術館からタイムリーに送るとなると、郵送料とてもかかります。

ですから実際には、郵送料は足りないのて、厳選して効果のある所へ送っていく、っていうカスタマイズを繰り返しながら、ようやく今バランスの取れた、発送先というのが出来ているところでございます。

けれども、「では、十分ですか？」と言うと、まだ不十分のところがございますので、これからも注意して、効果のある所を発掘して、お願いしていくことが必要だと思っております。

□たまたま、府中市にあるじゃないですか。府中の高校が。あそこの連携は、どうなっているんでしょうか。教育委員会じゃなくて、府中市の広報自体で。

□最初から、広報ということが話題になりますので、広報のところて、もう一度振り返ってみたいと思います。

全体的に広報が不足であるとか、広報のやり方も、どんどん変わってきており

ますので、それも含めて考えたいと思います。

□子供向けの展覧会もあるのに、チラシが一人、一枚っていうのは…。

■すいません。それについてなんですが、展覧会の開催自体は、夏休み設定しております。というのは、学期終了前に、子供達にチラシが行くようにという前提で、展覧会の会期を設定しております、7月の中旬に配布できるように、と。

これは学校教育との連携で、学級単位で、これも実は2万に近いんですが、クラス単位で数を分けて配布しないと、なかなか先生方も配っていただけない、ということで、年度当初に、クラスの名簿を頂いて、特別なクラスにも漏れがないように配布しております。

全部の展覧会ではありませんけれども、こういう夏の展覧会、子供向けの展覧会については、最優先にして配っております。

私立学校については十分でないところもございますが、公立学校については、対応しております。

□ありがとうございました。ちょっと広報のところ、まとめてやりましょう。

次に「施設整理」。私は東京都現代美術館も芸大美術館も作ってきたので、「施設整理」には関しては、割合にわかっているつもりなんですが、ちょっとこちらなので、簡単に要点を申しますと、文章も比較的しっかりしているのですが、要するに、ここで書かれていることは、「施設の整備が不可欠である」ということと、もう20年経てば、だいたい30年目までには大規模改修が必要ということ。

そして書かれていることが、次のパラグラフの空調設備のこと、それから照明設備のこと。これは割合、美術館では絡むんですね。

特に全部LEDでそろえると、LEDというのは電球の寿命が大変長いので、電気代も少なく済むので、省エネ、コストカットになる。それから、発熱をしない。空調のランニングコストが減る。これは一緒に出した方がいいと思います。

それから毎回問題になる盛土。それから、次のページにあります、駐車場の問題。それからエスカレーター、エレベーター。

この駐車場の問題ですが、ただ駐車場というよりは、高齢者や身障者対応というのを入れた方が、説得力があるのではないかと思います。

それから、ここは上りのエレベーターしかなく、階段を登る方が辛い、というのは20年前の発想ですが、高齢者は下りの方が辛い方もいらっしゃいますので、「なぜ下りがないのだろう？」という気がしますし、それからエレベーターは車椅子対応が絶対ですし、この辺も考えなければいけないのだと思います。

ということで項目としては、網羅されると思いますが、最初に述べました通り、



どこかに収蔵庫を何とかしたい、というのを入れたいですね。

収蔵庫の整備ですか。

収蔵の増設です。

こういうところがあるので、20年を俯瞰して、どう考えるか、という議論があるんですよ。

20年経つと、「何が問題になって、どれくらい経費がかかるんですか」というものが、最初にあって、それから議論だと思うんですよ。

「総括」が、重要だとそういうのは、それらを含めて、「どうなんだ」ということ、だと思うのです。だから、その個別のLEDが、どうのこうのというだけでなく、施設全体として、どうなのか。

それから他に、米軍跡地の施設との連携は、どうなのか。そういう20年を見通した、見通しや希望というものを決める必要がある。

収蔵庫は、もう一杯なんでしょうか。

私が見る限りは、一杯といってもいいと思いますね。

あんなに、立派なのに。

ですから20年で2,300ですか。そのぐらい収集したから同じペースで収集するとすれば、20年後には2倍の量の収蔵庫があることになる。

確かに20年後の状況を俯瞰しながらの文章を書いたほうが、展示室とかはいいんですけど、環境さえ維持できていれば。

現在、作家をたくさん集めればきりが無い、と私は思うのですが、近代洋画を中心に受け入れをしたら、今の場合は必要ないということになる気がします。

この最後の3行の社会情勢の変化が訪れるという部分が、あまりにも曖昧なので、ここに例えば、「収蔵作品の増加によって、収蔵庫を増設」とか「エレベーターの増設」が上に具体的にありますが、予算の獲得ですとか、入れるのはどうでしょうか。

そうですね。これで施設の改善、充実と言っても。

□様々な社会情勢の変化が訪れると言うのは、当たり前の事なんですけれども、これは美術館に関して、ここで書く必要はない、という気がしております、あいだには収蔵作品の増加に伴う収蔵庫の増設、あるいは今上がっている、もっと目玉の作品を購入するために、お客さんを沢山集めるというのも、その人たちの利便性を入れることはできると思うのです。

□そうですね。ここかもしれないですね。いわゆる面積の確保あるいは増設。

□ですから、返還されるわけですよ。それが美術館用に使えるかもしれない。そういうことですよ。駐車場ですとか、そうだとすると、「強くそれを要望する」みたいなことを書いても、いいと思います。

■あれは、今は国の計画で。

■実際には、計画が出来ておりました、収蔵庫については、国の収蔵庫ができるような事を言われているのですが、はっきりと、どうなるかは、これからになるのですけれど、うちとして分かっていることは、美術館の駐車場は、間違いなく提供されます。

ただ位置が、どこにあるか、「なるべく近くに」と要望しておりますが、計画の中で設計する中で、どうなるかというのは、改めて美術館の収蔵庫というものを入れるような状況ではないですね。

□でも空いた土地に国の収蔵庫と、おっしゃいましたが、それは美術館のことですか。書類保管庫ですとか。

■そうですね。国の収蔵庫をやりたい、と国の方から言われております。

□では、その一部に、うちらが満杯になった時に、場所を確保できることは可能ですか。

■可能ではないです。それもまだ、どうなるかは分からないのですけれども、国の方がまだ色々考えていますし、こちらも考えておりますので、どうなるか、はっきりわからない。こういうような計画が一部ある、という現状では、国の所有なので。それから市の施設、総合体育館ですとか、できる予定はあります。

あと商業施設ですとか住宅街ですが、計画としては、どこがどうなるというの

は、これから決まります。

□ こういうのが、一番書きにくいんですよね。

■ 参考までに申し上げますが、当初は限られた予算で、限られた用地を使うということで、コンパクトにまとめて美術館を作らざるを得ない状態でした。

その中で収蔵庫というのは広ければいい、ということが当初の計画にもありましたが、全体の中でスペースを最大限確保する、ということに努めて、現状こういう形になっております。

いずれ狭隘化することは、わかっておりますけれども、現状がどうかと言いますと、今ぎゅうぎゅうというわけではなくて、作品の保管棚を増設すれば、まだスペースはかなり確保できるだろうし、今はまだ収蔵できるのではないか、と思えます。

けれども、先ほど委員の話があったように、ネックになりますのは、収蔵庫が一杯なんだから、もう買う必要がないのじゃないか、という論理が働きます。展覧会で何点出せるのか。2,000あれば十分じゃないか。収蔵庫も一杯と聞いたら、もう隠しようがないことだと思います。

府中、多摩の美術の風土を醸成していくために、定期的に購入していかなければ、歴史は辿れないと思えます。

これからも購入収集を続けていかなければならないので、むしろ美術館として大変ありがたいお話は、予算がかかるとしても、継続的に、これからも街の誇りとなれるようなコレクションを作っていくべき、という声があって、それでこの何年か先に、収蔵庫が狭くなってきたら、また必要ですが、私としては地下駐車場を収蔵庫に展開すれば、機械が直近にありますし、収納庫だけ作っても、空調が遠いと全然ダメなので、空調も大変な苦勞になるかもしれませんが、施設としては、地下駐車場にということで、近くに駐車場が来ると言うのであれば、大体できるのではないか、と思えます。それはテクニカルの問題ですけれども。

やはり皆さんのお声としては、収集の重みですね。建物が狭い、お金のあるなし関係なく、府中の美術を深く研究してほしいんだ、という声がいただければ、そういったものが軸となって発言できるかな、と思っております。

当初、もうちょっと大きくすれば良かったんですね。現状として、こういう状況になっております。

□ ありがとうございます。20年を見据えての展望ですので、少なくとも最後の文章を、もう少し夢かもしれないけれども、具体性をもったような形で書いた方がいい、と思えますね。できないかもしれない、ということ前提ですけれども。

ただ、あそこの土地の問題に関しては、あまり勝手に、ここで断定なことを書いてしまうと、はっきり言って、どっちと奪い合いになっているので、私もちょっと国の収蔵庫の問題に関わってしまっているのです。

■今まで紹介して作品の収蔵につながった機会があったとしても、結局、収蔵庫のいろいろの理由もあって、お断りしたケースもありました。

地域性が高い作家で、もし余裕があるならば収納したい、というものがあっても、優先しなければならぬものがあれば、それは収蔵されないわけで、スペースの問題さえ解決すれば、もっと地域性の強い作家の作品が増えますし、それについての研究も進んでいくのであれば、そういった答申も有効だと思います。

□悲しく悔しい思いをしたことがありますので。

□そうですね。この最後の文章が、ちょっと事務的な文章なので、ちょっと考えましょう。今ここで考えると、また時間が大変です。

□本当に、この地域性として、作家の多いところなので、やればやるほど、たくさんいらっしゃるんですよ。だから有名な所というふうに、どうしても思いがちですけども、発掘して世に出していく大事な仕事に繋がっていく。それが多摩の地域から出てくる。そして、それがそのまま市民の誇りに思えるような作品になればいいわけで、大事なところだと思います。地域性は。

□ありがとうございます。ちょっと、あの広報活動にいきたいと思います。

先ほどから、いくつか出てきたところで言うと、普及の方法、それが広報というのは、どんどん変化しているんですね。

私がこの仕事始めて30年ぐらいなのですが、基本的にはポスターとチラシだったんです。それが随分変わってきていて、だんだんと、いろいろ使うようになり、それからコロナ騒ぎで、よりオンラインと言うか、ネットワークという方向に流れているかと思うと、多分、先ほど、どれくらいチラシを作ったかという話がありましたが、チラシは絶対なくならないと思うんですよ。

ですから教育普及の方法とチラシによる、きめ細やかな広報と、そのあたりを念頭においた上で、この文章を見ていきたいと思います

□このリニューアルだけでなく、独立というのも意見した気がします。市のホームページと離して、美術館がいじれるようにすることが、すごく大事だと思います。

□それは、どこの美術館も困っていることなんですけども。それ入れましょう。市のホームページって、どうもデザインが。

□せっかくの館長の文章が、ベタ打ちになっているので、ちゃんとしてもらえば、と思います。

アクセスすれば、必ず市のページから飛ばなければならない。展覧会ごとに学芸員の思いがあるのに、それを全く反映できない。本当にもったいない。

それぞれの展覧会の特色を十分に出せるような、ホームページになっていたきたい。何とかしてください。

□他に、いかがですか。

□ここにも書いてありますが、矢印を設けて、何メートルおきに具体的な事を入れていただきたい。全然たどれないのですよね、美術館への道を。

Googleマップがあるからいいんですけど、それによって、この街に美術館があると言う効果があると思います。

□やっぱり、特に府中駅構内での電車を待つ、帰宅する人の心に留まるような、正面玄関で出しているような、大きなビジュアルがあることで、毎日すごい効果的に心に残ります。また親子の会話にもなるかもしれないですね。美術館でこれやっていると。

このタイアップをどういう風に可能になるか、分かんないのですが、今、例えばバス停なんか、化粧品会社の広告がいくつかあったりするのですが、全くあんなの有効的じゃない。お金が相当かかると思っています。

可能であれば是非、明星の看板の横に。学校紹介みたいなのは、お金を出せば入るのかもしれませんが、例えば大国魂神社の入口の方に結婚式場の看板がありますが、空いたところに。

バス停の方がいいと思うのですが、ああいう所でもいいし、駅構内にそういったものを作ってほしいと思います。

あと、この辺どうなんだろうと思うのですが、真ん中辺に具体的な施策として、マスメディアのところで、みんな知っている言葉だと思うのですが「ジェイコム」という商業的なものが入ってくるんです。

あと「ラジオ府中」の字なんですけど。あとアーティストコレクティブ府中オーナーですとか。これはギャラリーオーナーですとか、入っているのですが、私も入っているのを知っています。

ちょっと提案させてもらったのですが、そういう具体的な、そういったことを載せてよろしかったでしょうか。固有名詞というのを載せてもいいものなのでしょうか。

これは情報公開で答申が、そのまま載っかりますよね。

ここはジェイコムではなくて、「地域放送」というか、そういった言葉に直した方がいいんですかね。

そうですね。むしろ、これは事務的には、どんな感じになりますか。こういうところに特定の固有名詞を…。

固有名詞の問題もあるんですが、こういった名前を出してしても、具体的と言えば具体的なんですが、狭まっている感じがするので、細かく出さなくてもいいんじゃないかなって協議会の中で整理していたのですが、ちょっと異質な感じがしておりました

ニュースその他の場合で、それに関連する特定の固有名詞が出てしまうことは、しょうがないのですよね。それは。

でも、そこは商売ということでもないもので、そういうことだと、そこだけ特定の名前を出して宣伝してしまうと、宣伝されなかった方から、「何であっちの名前が出て、自分の店の名前が出ないんだ」と、そんな話になりますので。

地元メディアですとか。

そういう事の方が、いいでしょうね。

「なんで、それなの？」っていう話も出ますのでね。

本当は広報活動費をたくさん取らなくても、「美術館のポスターを貼らせてください」と人を説得するような美術館になったら、いいと思うのですよね。そして「しょうがないなあ」と言って、美術館のポスター貼ってくれるような、そういうようになって欲しいと思うのですよね。

前に個人の名前を冠した美術館を見ましたけれども、街を歩くと、お魚屋さんでも文房具屋さんでも美容院も、みんなポスターが誇らしげに貼ってあって、良いところだな、と思ったんですけれども、府中市美術館は、それができないとい

うわけで、なんかそういう文章にしろって言ったって、できませんけれども、そういう気持ちが表現できたらいいな、と思います。

□また、やっぱり効果的なことをまず考えたほうがいいと思います。それって地道に20年やってきて、成果もあるわけで、一概に長いというわけではないのですが、やはり地味さというものを、少しでも効果的にやるべきだな、と思います。

□広報は本当に苦労されていらっしゃるので、予算的にも、やっぱりつけばいいかな、と思います。

□予算ですとか、人も。

□そうですね。確かに広報っていうのは、突き詰めると、どれくらい金をかけるかということになってしまうんでね。

□府中の郷土の森の「梅まつり」や、「あじさい祭」の時になると、分倍河原駅一面が桜色になったり、すごい数がつくので、なんで美術館がそうならないのか、と思うことがありますから、できないことはないのだろうな、と思います。

府中の駅前、東府中駅前が展覧会開催前、一か月前には美術館用となる、という風にどうしてもできないのでしょうかね。バーナーをかける場所があったりするのに。

□確かに、ちょっとワンパターン化していることあるかもしれないですね。展覧会によって広報の仕方も媒体変わってきますので。その辺りが大変でしょうけどもね。

本当はこういったものは、単なる広報というよりは、もうプロがいるんですよね。プロが必要なんですよね。

□「広報担当者を一人置け」と書けばいいんですね。

□ご担当者って、いらっしゃるんですかね。

□それはね、プロの仕事なんですよ。今の時代は。

□だって学芸員の方は、自分の展覧会の方も広報も全てやるのでしょうか。別にもう一人広報を行ってくれる人がいたら、すごくいいですよ。

■あの現状、美術館に広報を担当する者はいるのですけれども、いま言っていた広報担当者というのは、もっとマーケティングとか、言ってみればプランニングというところだと思います。それですと担当者が必要ですし、それをやると、おそらく今、美術館が持っている広報予算の二桁違いの数千万円からの予算が必要になってくると思います。

□やはり「素晴らしい展覧会をやっています」と書いたのに、それを広報するお金がない。

□美術館単体として予算が無いとしても、府中市の広報だってあるわけですし、それは駄目なんですか。それこそジェイコムニュースにしょっちゅう主張が出ていて。

□これもある意味で、典型的というのしか出来ませんよね。ですから展覧会というのは対象年齢があったり、どの子が一番興味を持つかですとか、そういうことを細かく分析しながら、「それを受け止めるには、どういう媒体がいるのか」ですとか、「今やっている展覧会のメインターゲットというのは、やはり子供達」、あるいは、「これから美術を見ることを楽しんだりするような層」と。

それと例えば、年齢の高い展覧会をやることは、広報からどうやって行くか、当然広報の仕方、そのためにはどういうメディアが有効なのか、分析的に見ていくことが、いわゆるマネージメントというところになっていくところだと思います。

□結局は、今までは片一方に重きが置かれてしまっていたと。

■経験則でやってきた。確かに、きめ細かくやって行くことも必要なんですけども、一方で広報は前に出ました通り、結局お金をかければ、かけるほど効果が出るので、現状で満足しているわけではないのですが、より効果的なことをやっていきたい、と思います。

□府中市美術館展覧会が新聞社ですとか、百貨店ですとか、口出しされないように、お金は出ないけれど、自由にやって良い展覧会ができたと言えると思います。

そういうところから、お金を引っ張ってくれば、たくさん広報ができることはわかっていますが、そうじゃないということを市民には、よく分かっていただいて、そして予算を付けていただくのがいいと思います。



□そういう書き方が、いいかもしれませんね。要するにメディアからの持ち込みがあって、あるいは巡回展でなくて、オリジナルの展覧会をやっていますので、別にメディアと提携してない展覧会が多いので、どうしても広報が手薄になるんですよ。

□お金をかけた新聞社ですとかは、テレビ局とかが一杯チケットを作って配ってくれるから、ただでチケットもらった人がたくさん見に来て人数が増えるという仕組みですから、そうじゃないと反対になる。

□ですから、そういう優れたオリジナルの展開をしてきたので、それゆえに広報をもうちょっと何とかしてほしい。

□これまでは奇跡だったのではないかと、思います。

□そういう反論を冒頭に入れた方が、いいんじゃないですか。我々が美術館に答申するのですから、「委員会としては、そういう風に認識している」というような文章を最初に入れて、そして後半をちょっと具体的な策を文章にして、そして固有名詞をカットして、という方向で。

そうすると、あの展覧会の方で特質というのが、ここで展覧会活動で優秀さと言うか、オリジナリティが、また後で強調されますので、その方向で行きましょう。

□いいですか。この連携活動は、他の美術館、公立美術館との連携は、メインテーマには入らないのですかね。そういう項目ではないのですか。

□一応この文章では、「近隣を含め、他の美術館との連携は重要」との一文が入っていますけれども。

□具体的には、どう言うことなんですか

□具体的に、こういうことをやりたい、と言うような一番単純に考えれば、展覧会とは限りませんが、共同企画ですよ。ふたつの美術館で一つの企画を立ち上げて、両方の美術館でやるということ。

それから多分、これから増えてくるんじゃないかと思うのですけれども、どの美術館も当然ですけども、所蔵作品を全部出しているわけではないので、交代で出しているのです、収蔵庫の中で保管され眠っている作品があるので、それを対象

として所蔵品展を交換する、そういうのが単純に考えればありますけれども。

それから日本の美術館は、これ問題だと思っているのですけども、もっと本当は人材交流があつていいのですよ。学芸員が3ヶ月ぐらい、それぞれあつちの美術館、こっちの美術館へ行って。この連携も極めて重要と考えているだけでなく、今みたいな共同企画、所蔵品交換と、それから人材交流、そういうような具体的な言葉を入れた方が、いいかもしれないですね。そう思いますね。極めて重要と考えると言う割には、中身がないな、と。

今おっしゃった人材交流とか、それから共同企画の問題とか、具体的に入れたらどうなんですか。

そうですね。入れましょう。お互い所蔵品の交換、有効活用、それから人材交流。これ本当に人材交流をやるといいんですよ。

その後、お互いどこの美術館に誰がいるみたいな、その美術館で誰が3ヶ月研修行ったとか、そういうのお互いに共有する。結局この美術品を扱ってく仕事は人間関係的な信頼がないとやっていけない所があるので。

机や椅子を貸し出すのではないので、一点しかない貴重な美術品を貸し出すので、「あその美術館は誰がいるから貸し出す」ということが、どうしてもあるんですよ。「あいつがいるから、大丈夫」というようなね。それは大事なことだと思いますので入れましょう。

はい、近隣をはじめとする、全国各地の美術館との連携は、一つの文章になっていますが、近隣の美術館とお付き合いするのと、全国の美術館とお付き合いするのは、意味合いが全然違ってくると思いますし、近隣7市の中にあります他の美術館を代表するというか、ここが一番大きいはずなので、ここの東ね役としての府中市美術館というような意味もあつて、近隣7市との連携をやって頂いて、そして他の意味で全国の美術館とやって行く。二つの意味に分けていた方がいいと思います。

どっちみち項目を入れないといけないので、この近隣をという文章を作り直さないといけないので。

何かネットワークみたいのありましたよね。

■あります。

ネットワークがあるという事と、それと全国の美術館からという風にしていいと思います。

そうですね。

すごく頑張っていたきたいので。

そうですね。スタンプラリーみたいなものが、できたらいいのですけれども。それほど大きなことでもないという気がします。

これ重要性から言ったら、全国各地の美術館との連携がメインなんじゃないのですか。近隣と言っても小さな美術館もありますけども、どこが近隣かって言うと、世田谷とか八王子ですか。

世田谷と町田が大きいですね。

わざわざ「近隣」と、取り上げる意味がないと思うのですけども。府中市とその周辺の市なら分かりますが、そこにはあまり大きな美術館がありませんので、活動のメインは全国じゃないのですか。

そうですね。

■ 現場を報告させていただきます。近隣とのネットワークがスタートしております。その狙いは、来館者は、当然府中の方が多いと思いますけれども、実際には、たくさん市外のところからお見えになります。

府中市と接する他市の地域美術館とのネットワークが相互に、府中市の美術館の方も小金井、調布にもこういった小さなネットワークが必要だと考えています。

どうしても地域で言いますと、東京なのか、多摩なのか、次に京王線なのか、中央線なのかではなくて、近隣にいらっしゃる方の連携を重視すべきじゃないか、と考えていたところでございます。

もう一つは、先ほど地域全国の美術館中で、所蔵品の類似性ですとか、規模の適正などで20年に渡って、相互の作品の貸し出し、借用または共同開催と、少しずつ割と強いネットワークを築いておりますので、おっしゃる通り日本全国のネットワークとは別式のものかな、というふうに思っております。

□そうですね。近隣とのネットワークというのは、どちらかと言うと、入館者数を上げるというか、府中市民の方にも他の美術館に行ってもらい、他の市の方も来ていただく、という意味でのネットワークというのが多いのですよね。というのは、別に世田谷と府中市と所蔵作品を交換して展示してもあまり意味がない。

ここは文章を二つにしましょう。要するに近隣の方にも、いろんなどこ行ってもらえるように、スタンプラリーのようなネットワークが、かなり進んでいるけれど、全国各地の美術館との連携をより積極的に考えるべき、そんな形で文章を分けましょう。最初のご指摘の通り。

□実は府中の近隣の人達は、羨ましいと思っているのですよね。「府中市には美術館があって」と、実は思っているのに、府中市民の人は、そんな風に羨ましがられていると知らないのですよね。そういうのを知らしめる為にも、必要なのです。

□そうですね。どこの美術館でも同じですけど。

□三鷹でさえもそうです。三鷹の人も本当に気の毒です。財政は豊かなのに、我慢しろと言われていているのですから。

□中央線沿線には、結構、学者や芸術家が多いのに、もう関わらず中央線沿線には大きな美術館がないですよね。

□国立もないのですよね。

□不思議なものでね。

□それがどういうことなのか、もっと府中市民に考えてもらった方がいいんじゃないですか。だからそれを市が応援してもらわないと困るので、「お金が必要なのです」と。

□そうなんですよ。

□ちょっと関連で、よろしいですか。この話が出たので、ちょっと話をしたいと思うのですが、府中市美術館の対象、主なターゲットはどこに置くか、ということなんです。

どこを対象にするか、というのを見ると、府中市は26万人という人口があり

ますけれども、周辺の接する周辺の人口は120万を超すので、だから例えば、さっき言った山梨県ですとか、そういったところの県の人口が70万とか90万とか、100万切るんですよ。

だから府中市立美術館とはいえ、県立美術館ほどの規模にしてもいいんじゃないかと思うのですけども。

□これほどのスペースがあれば、県でやるほどの展覧会もできるので、県を回る巡回点検を府中市美術館ならできるスペース持っているので、県でやった美術展を府中市美術館でもやれることができるのですから。

□ある大学の先生に言ったことがあるのですけれど、「山梨県立美術館ほどのレベルにすれば、ちょうどいいと思っている」と言いましたら、「県と市では違うので、そういうことが必要なんですかね」というようなこと言われたんですけども。

府中市美術館の位置づけとして、「県レベルだよ」というような主張をしても良いのではないかと思うのですよね。

例えば、私は3年前に手術をして都内の大きな病院に行ったんですけども、そこは高度医療の病院なので、「そんな簡単な手術はできません。南多摩の方に都立の病院がありますので、そちらでやってください」と言われたで、結局、稲城市立病院で手術を受けたんです。

だからそういう周辺で、やっぱり持ちつ持たれつと言うんですかね。美術館でも近隣の市民のベネフィットを与えられると思います。「病院は稲城でも、府中市民も診ますよ」と。そういうお互い様の関係ですね。

そういうことで考えれば、市という範囲に狭めなくて、近隣を含めた位置づけの美術館だと主張してもいいんじゃないか、と思うのですが。今の立場だと、どういう立場になっているのですか。あくまでも市だけの美術館なのか、この地域全般の120万人のための美術館なのか。

■私は、そういうことを答える立場にないかもしれないのですが、基本的に市の税金で運営しておりますので、市民の皆様の期待しているものは何か、というのを集約して、検討して参りました。市民のために立ち上げてきた美術館ですから、今後も市民のためというのは大目標であろうと思います。

ここで一つの実例を申し上げますと、西東京市の方でNPOがありまして、子供たちに美術館鑑賞をさせる、という活動がありまして、その活動場所が府中市美術館なんですね。美術館のない近隣市でも、当美術館を使用していただくということで、近隣市の期待というものを、我々も負っていく必要があるのではない

か、と思っております。

目標としては市民ですけれども、近隣市からも期待をされているので、周辺のために頑張るっていうと本末転倒かもしれませんが、視野を広く持って、期待に応えていくべきだと思っております。

□はい、そうしますと、この連携活動の最後の所は、府中市だけではなく、府中市のみならずということで、近隣7市を含めた周辺全体を含めた感じで。

□そういう言葉にしていた方がいいんでしょうね。だから要するに周りの美術館とは、質はともかくとして、連携活動になるのですよね。

これはですね、ちょっと建前と本音の違いです。行政的な中で考えている場合には、やはり、まず第一は「府中市民のため」と言わざるを得ないと思います。だって、この委員だって府中市民の中から参加されているわけですし。ですから行政の中にいる以上、まずは第一は府中市民だと。だから「府中市民のみならず」なら全然問題ないと思います。

□ややこしいこと言っちゃうかもしれませんが、周辺の市から予算を集めると言うのは。

□それは多分、面と向かっては無理でしょうね。

□では、この最後のところですけど、町のという曖昧な言い方じゃなくて、ここを府中市のとして活性化を図ることを視野に入れながら、「府中市」のところを「地域全体」と変えちゃえば、いいんじゃないですか。

□なるほど、さすがです。あの先ほどから言ってますが、細かい部分の訂正は意外に本質的な部分に関わることなので。じゃあ最後まで来ましたので、次に行きましょう。

□この最初の一行ですけど、ここまで、皆さんと議論してきて、一体感が含まれていないという気がするのですが。

□何か違いすぎますよね。

□私も。これとりましょう。声があると言っても、「具体的に、どっからという声が上がっているのか？」と。

□地味だとか、人が来ないとか、という事と、一体感とは全く違うことですよ。

□とりましょう。もう次の文章でいいですよ。「この前の答申以降、あまり進展していない」というような書き方で十分です。

□この指摘は、おかしいんじゃないですかね。

□あの、よろしいですか。あの原文でいうと4行目、「美術館本体の魅力が十分備わりつつある中」の「十分」というのは、ない方がいいのじゃないかな、と思いますが。「魅力が備わりつつある中で」で十分なのではないかと。

十分備わりつつあるのであれば、これから改革とか必要ない訳なので「美術館本体の魅力が備わりつつある中で」という方が正確なのではないかと。

□この文章自体は、何言っているかよくわからないのですが、次の文章につなげていくためには、「美術館本来の魅力が備わりつつある中」より、具体的に言えば「この20年間で、美術館本体の魅力が備えつつある中で、今後20年間は」という方が良いと思いますね。

それから時間もありますので、私も喋っちゃいますけども、これでいいですか。「府中市といえば競馬場」ですっていうのは、なんかちょっと文法が。

□この文言はですね、私が委員会の中で以前話をしたことが入っていて、私の発言の趣旨に合うのですが、ただ客観的に見ると、ちょっと刺激的なので、答申書にはそぐわないかな、という気がします。ただもう、ちょっと穏当な言い方で、その変えられればな、と思いますけども。

□趣旨は、分かるのですけどもね。ただ...

□私も非常に気になっていて、それなりに必要な施設であるので、と言っておいて、いわゆる幽霊と付き合うような言い方をすべきではないと思います。

□あの府中市の市民憲章というのがあるのですけどもね。それにはですね、「高い文化を目指しましょう」というようなところあるのです。

それと比べると、今の世間の印象というのは文化都市というイメージではないので、そこをもうちょっと変革したいな、という思いがあるのですが、だからなんかこれに沿うような表現があった方があっていいな、と。このままでは、ち

よっとダイレクトすぎて、ちょっと「えっ」と思うので。

□まさに、そういうことだと思いますよ。文化の非常に高い街であると。それを目指すために美術館は大事であると。少なくとも「競馬場」、「刑務所」っていう具体的な言葉はとりましょう。

□すいません。5 ページ目の「美術館と市民」の所の下から 2 行目にあたりにありますね、「3年に一度の〜が考えられる」ということなのですが、この美術館が一番されている教育活動と市民との観点を重視しているというのは、非常に良いことだと思います。

ついでですので、検討するって事なのでしょうけども、2年に1度のビエンナーレ、さらに市民と美術館が密接に関係するという意味では、アンデパンダン展とか考えられるのではないかと。その二つも考えられるとか、検討するって事を入れたらどうかな、と思うのですけども。

□そういう展覧会だけじゃなくて、他のことでも市民のための市民による展覧会とか、やはり市民中心となるような企画もいくつかあるようなので、是非そういうものを作り上げていくような連携というのができないか、と思います。

展覧会というは美術館の方からもメリットというものが、今まであったけれども、あまり知られてないというお話もありましたが、やはりそうじゃなくて、今注目されるのは、やっぱり市民との一体感という言葉が取られてしまったので、なおさら市民が作り上げている何か、みたいなものも通じるのかな、と思います。

□ここはね3年に1度開催と、言わなくてもいいと思うのですが。「府中ヴィアンナーレ或いは市民が企画する」、「市民が参加して企画する展覧会などを恒例化して開催することも考えられる」、そんな感じにしておけばいいと思います。

■今までの美術館の展覧会というのは、やっぱり、その美術館の府中市のみなさんに信頼して頂いている、学芸員を中心に企画してきたものなのですね。

一方で世の中、そうした機関に寄り添わない形で、府中から出るような形で、市民が中心になっていくというのが出てきて、それはそれで非常に存在意義のあることですよ。それを市の美術館が、すべて引き受けてしまうことは、本来の市民の中から出てきた自発的な動きを回収してしまっ、骨抜きにしてしまうことになりかねないですから、関わり方をどうするのか、というのは、せつかく市民美術館が出来たのですから、その良さを最大限生かしていただかないと



いけないわけですので、全て美術館で回収してしまうのはどうか、という気がします。

それから公募展アンデパンダン展もそうなのですが、そこに美術館としての目が入らないことになると、「皆さんが自由に出してください。それを全て並べますよ」とやりますと、本当に現状の美術館の蔵品として出すべきものなのか、それとも、これは美術館の蔵品ではなくて、もう一つ違う府中市の文化の話になるのか、ちょっとそこが皆さんのご意見が、どこにあるのか聞きたいな、という気がしております。

公募展とビエンナーレについて、ですよね。公募展をするということは、美術館がお墨付きを現代作家に与えるみたいなことがありますから、それをこの府中市美術館がする必要はあるのか、と強く思います。

賞を与えて収集する、ということになると、収集方針が違ってきてしまうので、そう言う必要はないと思います。公募展などというのを開きますと、賞とり合戦になってしまって、本当に絵を楽しんでいる人たちをないがしろにする、ということにもなるかもしれない。

本当に絵を楽しんでいる人達が、賞金とか賞ではない、「本当に私が楽しんで描いています。是非、見てください」ということでやるんなら別ですが、美術館が価値を失ってしまうことには、なってほしくない。

それから美術館側が、ビエンナーレをやりたいと思っていच्छやるのか、ということを知りたいです。

この二つを、この答申に載せる意味を知りたい。そんなに強く言わなきゃいけないことなのか。

はい、貴重なご意見いかがでしょうか

公募展はいい作品を集中する非常に手っ取り早いツールなので、これは是非やっという方がいいのではないかと、思います。やり方ですけど。

現代美術は、かないません。

どういう公募展をやるか、次第だと思います。

今、これはちょっと誤解があるんですよ。府中市の美術館の学芸員が主催して、そして府中市美術館が公募して、その中から学芸員が選んで展示すると、これは公募展なんですよ。

ところが、もう一つは、いわゆる公募をやっている団体がありまして、一番大きな団体ですけれども、その会場になる、単なる場所を貸すだけと、二重意味を持っているので、だから書くとしたら、やはり、この府中市美術館が主催して公募をかけて、計画してやっていくという意味での公募展にしないと。

色々な公募展が乗り込んでくる、という美術館ももちろんありますが、そういう美術館は公募展だけをやる会場があるわけで、学芸員が別の会場でやっています。だからちょっと公募展という意味は、しっかり書かないと混乱を招くということですよ。

□いろいろな問題があったので。

□それから、その場合でも仮にビエンナーレという言葉でも、これもやはり、美術館側が主催の場合、美術館学芸員がやる気があるのか、というビエンナーレ、要するに美術館が主催して公募をかけて、応募を受けてという点では同じなので、そのような文章にすれば、ここは何も公募展、ビエンナーレという言葉を入れなくても意味は通じますので、そこをちょっと書き加えないと、これだと誤解を招く可能性がありますね。

□これは、やはり20年先を睨んでから、将来的には、というような文言を入れて、美術館主催の公募展も考えられる、みたいな言い方にした方がいいと思います。

□そうですね。本当に20年後に、そういうことも出てくるかもしれない。ちょっと書き換えます。それでは、「終わりに」とは当然、前と絡んできますので、「終わりに」を考えながら、全体を何かこうした方がいいとかありますか。

□文言なんですけれども、最後から4行目の「美術館の本義を失わないように」とあるんですが、これは「府中市美術館の本義を」ということなんですか。

美術館の本義っていうのは、どういうことがよくわからないと言うか、広い範囲を含むと思うのですが、美術館の本義だけであれば、ここに何のために入れるのかな、と意味が不明だと思います。「府中市」という言葉を入れれば、より明確となる、と思います。

□はい、そうですね。これは一般美術館のことを言っているのではありませんので、やはり「府中市美術館」、また「本義」という言葉もいかどうか、もう1回考えた方がいいかもしれませんね。

□存在意義と言う意味なんですかね。

□本義という言葉は、20年前に開館した時に、美術館の設立趣旨というのがございまして、それはやはり「市民のために、この美術館を設立」ということがあったので、皆様のお考えですが、この20年を考えた時に、「ここで変更しろ」とおっしゃるのか、あるいは、このまま20年かけて、設立趣旨を今後も守り続けていくのか、それが「本義」に近いということなのかな、と思います。

□そこは、議論してないところですよ。

□そうですよね。

□今までのこれを守り続けるのか、それとも時代の変化に応じて、20年前の設立趣旨理念を変えていくのか、変えて行ってもいいのか。

□私は、ここは協議会関係者が多いので、意見が違うかもしれませんが、最初の設立趣旨から、もうちょっと文化の方に舵を切るような方向性にしたいな、ということであつたんですけども。

□「最初の設立趣旨はこうだったけど」といって、さらに後半でやっているみたいな言い方しないと。だいたい今、開館当初の設立趣旨と言われて、「何だったけ？」と私は思ったんですが。

□これを、はっきりすると教育関係者の反対側出てくると思うので、なし崩し的に、こういう答申に盛り込みたいな、と書いていたんです。

条例を見てみると、設立趣旨の第一が教育なんですよ。文化向上というのは2番目に出てくるんですよ。これでは市民の側から見ると、ちょっと物足りないな、と。やはり文化向上のために資する施設というところを強調したいな、と思って、いろいろ工夫したんです。だから、ここで「本義」というのが教育目的と捉えられると、ちょっと違うな、という気がします。

□でも、それは、その前に作品の収集保存か何か。これらに関して特に教育普及じゃないかと。

□いや、先ほど「本義」の定義を言われたので、それを言われると、ちょっと違

うかな、と。だから、その「本義」を違う言葉にしていただければ、と思います。

□「存在意義」じゃないですか。レゾンデートル。

□私が思うのは、府中市民のための美術館である、と感じています。

□では、「存在意義」ということになるんじゃないですか。

□「存在意義」にしとけば、「第一が市民のために」ですよ。

□そこを踏み外さないで。

□「存在意義」で、いいんじゃないかな。「本義」といえば、確かに何を言ってるかよく分からないとかありますからね。「存在意義」にしましょう。ここは。

□新型コロナ後の展望を含めていただきたいのですが。多分この文章の5行目を、この体制を維持してもらいたい、その後に新型コロナによる環境の変化と言うか、それにバーチャルと本物を見えるというような献立で、さらに考えられていかなければいけない、という現状を入れて頂いた方が、いいんじゃないか、と思います。

□例えばですね、今後20年の活動、および充実したものにするためにも、今後この体制を基本的には維持しつつ、最近のコロナ禍による社会の環境変化に柔軟に対応する、というような感じで、それは入れといた方がいいかもしれません。

この状況を見ていると、そう短期間に解決しそうにないので、多分、多少社会構造までとは言いませんが、仕事の仕方も含めて、環境が変わると思うのですよね。これかなり大変な状況で、日本各地の美術館も四苦八苦している。

例えばですけども、ディズニーランドを見れば分かるんですが、入場料を上げてしまうと。例えば1,000円で2万人来るならば、2,000円で1万人が来るなら、密にならない。2,000円出しても来たいって人だけ来るから。そして展示室がすくから、密にならない。それぐらいの改革をしてもいいんじゃないか、というのもあるんですよ。

それから、やはり収蔵品をいかに活用するか。その中で学芸員が一生懸命研究して、新たな価値を創造していくか。いろんな問題出てきているから、多分変わってくると思います。その辺のことを、ちょっと踏まえた上で、文章を付け加え

れば、コロナのことも入れといた方がいいですね。

□もう一つ、おわりになってしまったんですけども、さっきから府中市美術館がオリジナリティみたいなもので、展示じゃない他の方法で、と話があったんですが、例えば超一流のルノワールでも、ガラスがなくて見せる美術館というのは、日本国内にはないのじゃないかと思っているのですが。

例えば、府中市美術館がガラスのない、ちゃんと対話のできる絵を見せてくれる所になってくれればいいな、という願望が私にはあるんですが。

個人的にそういうような体質がある最初の美術館になってくれるといいな、と言う願望はあるんですが。その辺は内部の意見として話しさせていただきましたが、いかがでしょうか。

□ガラスがない方がいいのかもしれないのですが、お金を出せば今、無反射ガラスがありますので、割り合いに良い環境が得られるのも事実なんです。

日本の場合は展覧会によりますけれども、特に企画展なんかですと人数が多いんですよ。だから、どうしても作品の保護を考えてしまうと、ガラスあるいはガラスケースというものが出てきてしまうんですね。

□なんで海外では、大丈夫なんだろうかな。ウィーンの歴史美術館でも、何でも、そのまんま見せていますよね。

□伝統の違いというのものもあるかもしれませんが、それから、まず監視員とか監視カメラとか警備体制が、かなりお金かけていますよ。非常によくできていることと、それから、ちょっと、何かあったとしても、何しろ館内に修復工房抱えていて、常勤の修復士が何人もいるんでね。専門家ですとかいますので、ちょっと壊れたと言ったら、すぐ修復に回しちゃえばいいので、ちょっと体制の違いが大きいと思いますね。

日本は明治に欧米からの制度を入れて、それに従って相当に充実して来ているのですが、学校教育、大学教育の方が充実発展したのに比べ、全体的にミュージアムとかアーカイブとか、まだまだ脆弱なんです。

やはり向こうは、すごいですよ。美術館とか、それから、ちょっと大きな街に行けば、必ずオーケストラがあります。

そういう意味では、委員が言いましたように、教育重視ではなく文化という、これから20年の文化は、私は個人的には、この立場ですから共感はするのですが、ただ今そこで20年かけて、そっちに方向転換しろっていうのは、また角が立つと思います。

やはり、これだけ充実してきたのは、私は実は大学教授と学芸員を兼ねているので、両方見て分かるのですが、これだけ充実できた教育あるいは美術教育は、これからも守っていかなければならない、ということだと思います。大きく言えば。

□どんどん上が育ってくれば、いいですね。

□皆様からの活発なご意見のおかげなのか、もう5時15分になりました。議題2のその他は、何かもうよろしいですか。

ただ、このメンバーが揃うのは、最後になるかもしれませんので、何かここで最後に言っておきたいこと、挨拶したいことがある方がいらっしゃいましたら、御発言をお願いします。

はい、どうぞ何か一言。

□また色々勉強させてもらったな、と思いました。娘もここで高校生になって、今は府中市にいないので、そうすると、こちらの美術館と全く接点なくなってしまうんだ、と。

今日の展覧会も拝見したんですけれども、見るだけでもすごいんですが、色々題名ですとか企画しているところが、すごく印象に残るのですが、こういう接点がなくなってしまう、教えてもらう機会がなくなってしまうな、と思って。

調布市ですとか、近隣の学校でもアクションをかけていただければ、嬉しいかなと感じました。

□はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。以上のことで修正をかけて、最終的な答申ということになりますけども。

それでは、今後の事について、事務局の方から何か。

■冒頭の方で話しました委員の任期っていうのは、8月31日で切れてしまいます。2年間本当にありがとうございました。

本日のご意見を修正等いたしまして、最終的な答申を作成させていただきます。会長、副会長を含めて協力いただいてよろしいでしょうか。また答申書につきましては、教育会定例会にて報告して参ります。

本日はありがとうございました。